

1 学校教育目標

【がんばる子（知）】
【思いやりのある子（徳）】
【元気な子（体）】



2 学校経営基本方針

笑顔 かがやく 鴨川小（教育理念）

現代社会は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」と言われている。同時に新型コロナウイルス感染症による不安定な情勢を経験したり、自国第一主義や紛争といった国際的な利害関係による情勢悪化が深刻化したりしている社会である。また、情報化・国際化・価値観の多様化により、個人主義や確固とした意見を持つことが尊重されたことによる弊害として、基本的人権が軽んじられる恐れもある。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから1年あまり、学校教育活動の中で、児童の「笑顔かがやく」活動については、学校の業務改革の視点を持ちつつ、必要なものを厳選して再開させたい。また、開校50年の節目を経て、新しい10年（ディケイド）の2年目を迎えるにあたり、これまでの伝統を尊重しつつ、今後の本校の発展として、児童の夢や希望を育み、仲間と協働して力強く未来を切り拓こうとするたくましさに繋げていきたい。

さらに、上尾市では令和8年度から小中一貫教育の実施が計画されており、本年度はその準備期間となる。昨年、大谷地区5校（南中・大谷中・大谷小・鴨川小・今泉小）での枠組みで一貫教育を実施していくこととし、共通の「目指す児童生徒像」を定めたところである。

さて、本校の教育理念である「笑顔かがやく」とは、身近な他者を自分と同じように大切な存在として尊重し、他者とともに生きる喜びや他者とコミュニケーションを構築する楽しさを味わうこと、様々な教育活動の中で一人一人の児童が学ぶ楽しさを知り達成感や充実感を実感すること、そして、自らの成長を自らが主体的に意識し達成できる児童の姿を示している。

小学校教育は人生の基盤となる重要な教育活動である。本校では、時代に即した新しい学力観の下、全教職員の英知を集結させ、知徳体のバランスのとれた児童の育成に、保護者と連携しながら取り組んでいく。併せて、小中一貫教育の取組の一つとして中学校で実施される「シティズンシップ教育」につながる教育活動を模索・研究・実践していく。さらに、コミュニティースクールとして、地域社会の中で開かれた教育課程を行い、さらに地域が誇れる学校づくりを推進していく。

3 学校教育目標具現化のために

(1) 目指す学校像

- 児童が元気よく学習に励み、社会の一員として責任ある行動を身につけることができる学校
- 職員にとって、やりがいがあり、和を大切に、協力し合える学校
- 保護者・地域にとって、信頼でき、多様な考え方を認め、持続可能な社会を形成していこうとする学校

(2) 目指す児童像 ※令和7年度より大谷地区5校で同一のものとする。

○自ら考え、主体的に取り組む児童生徒

【がんばる子】

- ・一時間一時間の授業に集中する
- ・授業中は真剣に考え、友達と互いに学び合う
- ・毎日、家庭学習を行う
- ・本を読む習慣を身に付ける

○自己を律し他人を思いやれる児童生徒

【思いやりのある子】

- ・自ら進んであいさつをする
- ・いじめを「しない」「させない」「許さない」強い意志をもつ
- ・ルールを守り、社会の一員としての責任をもつ
- ・ていねいな言葉づかいで、相手を思いやる気持ちをもつ

○心身ともに健康でたくましい児童生徒

【元気な子】

- ・早寝、早起きを心がけ、規則正しく生活する習慣を身に付ける
- ・進んで体を動かし、たくましい心と体をつくる
- ・健康に気をつけ、安全で楽しい生活を送る

(3) 目指す教師像

○児童の心に寄り添い、温かな人間関係を築く教師【生きる力を育む】

- ・教育は感化、自らの「人間性」を常に磨き続ける
- ・謙虚な姿勢で、自らの言動を振り返る
- ・児童の心に寄り添い、温かい人間関係を築く

○児童の学習意欲を引き出し、学ぶ喜びを味わわせる教師【学ぶ喜びを育む】

- ・児童の知的好奇心をゆさぶり、学習意欲を引き出す
- ・各時間のめあてを示し、児童に達成感を味わわせる
- ・学び合いを通して、児童に学びがいを実感させる

○児童や保護者、地域社会との信頼関係を構築する教師【絆を育む】

- ・保護者、地域社会に開かれた教育課程を確実に実施する
- ・学校応援団などの保護者、地域の教育力を教室でも活かしていく
- ・児童の努力やよさを認め、ほめ、「自己有用感」を育てる

4 今年度の重点

I 確かな学力の育成

- 基礎的・基本的な学力を確実に定着させる。
デジタルドリルの活用、C B Tの活用、学習の振り返りを重視
- 英語教育を充実させる。 上尾市英語力向上プランの推進
～世界にはばたく かがやキッズ～ 進んで英語を話す。

II 豊かな心の育成

- 豊かな人権感覚（今日的な人権課題と差別の解消）を育成する。
- S D G s（多文化共生）の理解を促進する。

III 健やかな身体の育成

- 体力向上のために体育授業を工夫改善する。
- 安全教育を推進する（防災、食物アレルギー）。

IV 自立する力の育成

- 自己肯定感、自己有用感を高める指導・支援を工夫改善する。（P B S）
- 児童と触れあう時間を確保し児童理解を深める。

V 開かれた学校づくりの推進

- 家庭、地域社会との連携強化と情報の共有を図る。
- デジタルを活用して教育活動を発信する。

VI 教職員のマナーアップ

- サービスの厳正（教職員事故根絶）を図る。
- 働き方改革を推進する。

※上記の英略字部分

C B T ……Computer Based Testing パソコンによる試験

S D G s ……Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

P B S ……Positive Behavior Support 肯定的な行動支援